

名を持つた姓のものが九つ集つて作つて居る部屬團體で、これが回鶻なる總名を取つたものに外ならぬのである、他の高車、葛邏祿等についても同様である。そうして此等九ツの姓相互の間には如何なる關係があつて聯結するに至つたかは明らかには知れないが、思ふに前述キルギス部族についてラドロフ氏の説いて居る如く、相互の間に於る戰爭の爲に、此等のものが混一して遂に一團となつたか、或は婚姻の關係が基になつたか、或はまた地理上歴史上の特種の事情が基になつたとかの結果に外ならぬだらうと思ふ。唐書の記載に據ると、種類の上からいへば全く此等の九姓と同一種に屬するもので、またその位地も間近い間にあつたものが、回鶻なる部屬團體に入らないで、全く獨立して居ると明らかに記されて居るものが六種ある。勿論此等のものも回鶻の勢の盛となるにつれて、皆その下に服屬してしまつたが然もその關係はたゞ服屬の關係に止つて、まだ回鶻なる團體の中に入り込むでその一部となるには至らなかつたのである。之に反して拔悉蜜・葛邏祿なるトルコ族の二部は、回鶻の爲に撃ち破られると、その共同團體の中に入り込んでしまつて、此の後は回鶻なる團體は十一姓より成り、十一部と號することになつた。しかし此の時に至る迄に九姓の共同團體も、拔悉蜜・葛邏祿なる獨立部も、それぞれ古い歴史を持つて居るかから從來九姓相互の間に認められた程の深い關係を、新たなる二部との間に有することは困難で、従つて十一部とは稱するものゝ、新來の二部は客部として扱はれ、戰の場合に於ても常に先鋒の役目に當つて居る、つまり九姓を中心にした一種の同盟團體と見るべきもので、此の場合には中心に成つて居るものに遙かに優越なる權力の存するは自然の勢といはなければならぬ。かくの如き團體、もしくはかゝる團體の更に複加したものが前にいふた黨に當るもので、彼の蒙古の西方征伐後に出來た金黨、白黨の如きも、蒙古の或る姓即ち部を中心にして生じたる、此の種の黨